

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100657		
法人名	有限会社 ホットライフ		
事業所名	グループホーム ホットライフ		
所在地	佐賀県佐賀市鍋島町大字森田82番地20 (電 話) 0952-31-4605		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20年10月28日	評価確定日	平成 21年1月6日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	12人, 非常勤 2人, 常勤換算 1

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	無 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	0名	要介護2	6名		
要介護3	10名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.9歳	最低	74歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡病院 北川歯科医院 千葉歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商業地に位置し幹線道路の近くであるが、ホーム敷地は静かで落ち着いた場所である。2ユニットがあり、どちらも鍵をかけない支援や、馴染みの家具等の持ち込みなど、開放的な支援がなされている。母体医療機関が近くにあり、緊急時行き届いた対応がとれるよう、体制が整えられている。また、職員は入居者一人ひとりの意思を尊重し、一人ひとりの状態や希望に応じたサービス提供がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議や近隣住民との交流について前回調査でも課題であった。今後、検討が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で記入されている。評価結果はファイルにて保管されいつでも目を通せるようにし、評価を活かして具体的な改善に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かすことが期待される。また、地域住民との交流等についても、運営推進会議を活用されることが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホットライフ新聞を作成し、日常生活の写真をふんだんに掲載した新聞を毎月家族に渡されている。また、意見箱が設置され、家族の希望を聞きだす努力がなされている。また、面会時などに家族の意見を十分に伺うよう、積極的な家族への声かけがなされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流の一環として、小学校の運動会を見に行く等はされている。立地が商業地であることも関係し、地域との交流は少ない。今後は近隣住民との交流をもっと持つよう、検討することが期待される。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくために、「仲良くすること、できることはみんなですること」を理念に掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングの壁に理念を掲示するなど、日々全員が確認し実践に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会を見に行く等はされているが、立地が商業地であることも関係し、地域との交流は少ない。	○	今後は近隣住民との交流をもっと持てるよう、取り組まれることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で記入されている。評価結果はファイルにて保管されいつでも目を通せるようにし、評価を活かして具体的な改善に取り組まれているが、まだ改善できていない点がある。	○	運営推進会議や近隣住民との交流について前回調査でも課題であった。今後、検討が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	未実施である。	○	運営推進会議を開催し、利用者の様子やサービス提供の状況、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かすことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明点などについては、管理者が市町担当者に連絡し、連携することでサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用報告書が作成され、それを家族に提供されている。特記事項があるときは更に詳細を記入されたものが渡されている。 また、一階は、ホットライフ新聞を作成、日常生活の様子を写真をふんだんに掲載し、毎月家族にわたされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が設置され、家族の希望を聞きだす努力がなされている。また、面会時などに家族の意見を十分に伺うよう、積極的に家族に声かけがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一階は1年以上、職員の異動・離職はない。その点では顔なじみになりやすく、ダメージも少なく済んでいる。 二階では、職員異動後や新職員受入時に既存の職員がフォローアップし、利用者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が企画され、幹部職員の参加がある。法人外の介護講座に参加する機会を回覧や声かけで案内され、自主的な参加が促されている。	○	今後は更に外部研修への参加の機会を増やし、働きながら質の向上やトレーニングが推進されることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接の同系列有料老人ホームや系列の事業所とは相互交流がたまに行われている。	○	地域の同業者と広く交流する機会を設け、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていくよう取り組まれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のこれまでの暮らしを尊重し、一人ひとりのペースに合わせた生活を送れるように支援されている。本人が落ち着かれるように希望時には、家族が気を遣わず安心して宿泊できるよう、体制が整っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ができることはお願いし、できないことでもトライされるきっかけづくりを心がけられている。職員が教えられる場面もあり、本人から学んだり、支え合う関係を築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉が出てこないときは、本人の意思のキーワードとなる言葉をうまく引き出せるよう傾聴し、希望が把握できるように十分に観察されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族、主治医等の意見を聞き、原案を基に、カンファレンス等で話し合いが行われているが、計画作成にかかる会議録が残されていない。	○	出席者や検討課題等が明記された、担当者会議等の記録を整備されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間に応じて介護計画の評価を行い、見直しを行っている。また、大きく変化があった場合は、カンファレンスで意見交換し、それに基づき計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、外出等可能な限り、柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に月1回程度の受診を行なっている。専門医受診希望の場合も家族の協力を得て受診し、必要時には職員も同行されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りの希望を尋ねられている。また、病状に応じて家族の希望や医師の意見を聞き、出来る限りホットライフでの生活が継続できるよう取り組まれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース記録の内容には他の入居者の個人名を記載しないなど、プライバシーや個人情報の保護に配慮するよう取り組み、利用者の目に届かないところに保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活の流れは決められているが、その他は自由に過ごせるように配慮され、希望にそって楽しく生活できるよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ・後片付けなど利用者と職員と一緒にされている。広告や料理番組を観て希望が出れば、できるかぎり早く提供するなど食事に楽しみがもてるよう、取り組まれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できるよう準備し、希望やタイミングに合わせて入浴できるように声かけや誘導をされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、歌などを提案したり、食事の後片付けのお手伝いなど、利用者が積極的に役割を果たすことができるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	あまり外へと行きたがらない方には、買物やごみ捨てなどを利用し、外出できるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入口には鈴をつけて鍵をかけないケアに取り組まれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地区の交番や、隣接の有料老人ホームに協力を依頼している。また、近くの一般の会社等へは、非常時の協力が得られるよう日ごろから挨拶を交わすなど取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食ごとに記録し、各自の体調変化が把握できるよう取り組まれている。また、生活習慣病対策として栄養士に指導を受け、味付けなどに配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には写真が掲示され、利用者自身が懐かしまれるよう工夫されている。トイレ等匂いがある場合は消臭スプレーや換気で対応されている。折り紙などで季節を表わす手づくりの掲示物も作成され、居心地よく過ごせるよう工夫されている。乾燥防止のための加湿器や冷暖房なども備えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外はすべて自宅より持ち込んでおられ、馴染みの物に接しながら生活されている。家具等の配置は安全に配慮し、利用者と家族が決めて居心地よく過ごせるよう工夫されている。		